

CONFIDENTIAL

訪問診療端末機切替 操作手順書

2012年 10月 31日

第 1. 00版

 日立メディカルコンピュータ株式会社

目次

1. 概要.....	3
2. 対象機種.....	3
3. LANからの切離し手順	4
3.1 切離しの準備	4
3.2 切離し処理の実行	4
3.3 データ取込の準備.....	8
3.4 データ取込処理の実行	8
4. 運用上の注意	12

1. 概要

本手順書は訪問診療端末機として生成済みのクライアント機に対し、訪問診療先に持ち出すためのLAN切離し処理と訪問診療先から戻った時の訪問データ取込処理について、それぞれの手順を記述したものです。

※本書中に使用している参考画面は、機種により多少異なりますのでご了承ください。

2. 対象機種

fineⅢ/Denty-SEED Note 訪問診療端末用クライアント

3. LANからの切離し手順

訪問診療先へ端末機を持ち出すための手順で、訪問診療端末機で作業します。
この作業を行うことで端末機は訪問診療先での診療入力が可能となります。

3.1 切離しの準備

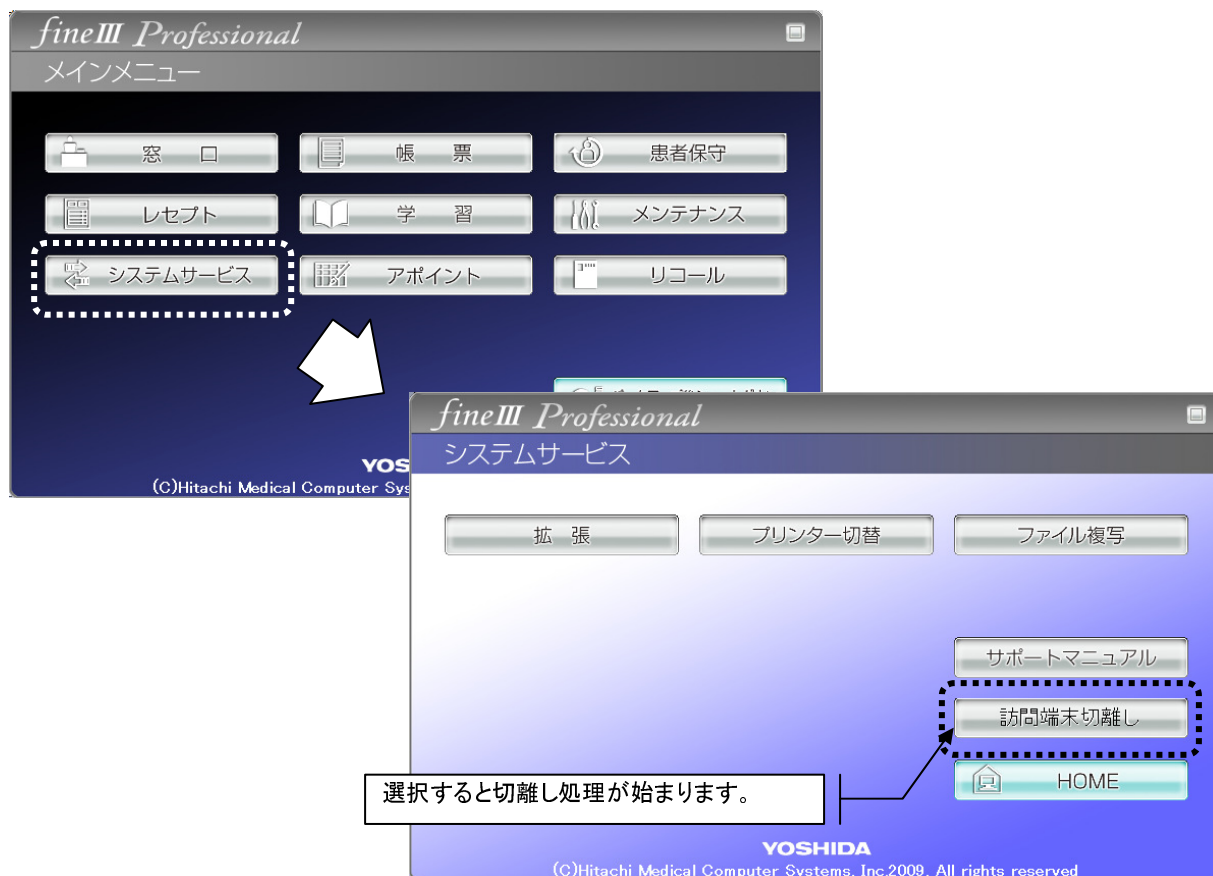
切離し処理を行う前に全ての業務を一旦終了させ、全てのマシンはランチャーメニューが表示されている状態にしてください。
(SERVER 機と切離し対象端末以外のマシンは電源断の状態でも構いません。)

3.2 切離し処理の実行

訪問診療端末機(LAN から切離して訪問診療先へ持ち出すマシン)で行う手順です。
以下の通りに進めてください。

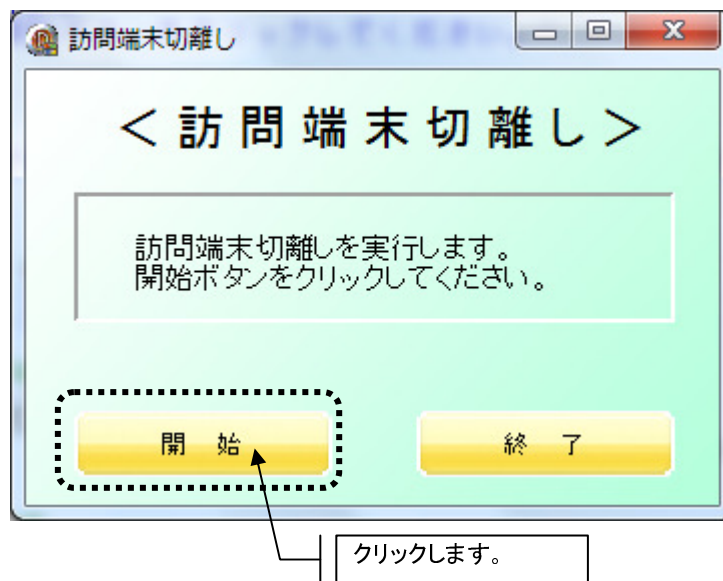
(1) 切離し処理の起動

ランチャーメニューから「システムサービス」→「訪問端末切離し」を選択します。



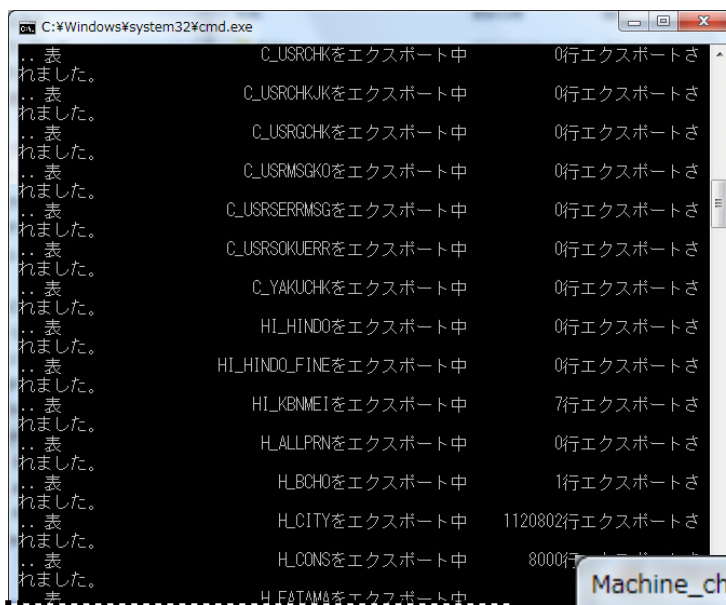
(2) 処理開始

切離し処理を始めます。「開始」ボタンをクリックしてください。

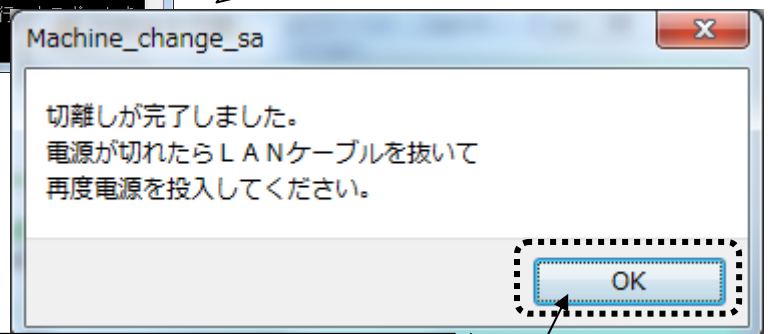


(3) 動作環境変更終了確認

マシンを LAN から切離すため現状のデータを取出し、マシンの動作環境を変更します。
データ取出しと動作環境変更が終了したら確認画面が表示されます。



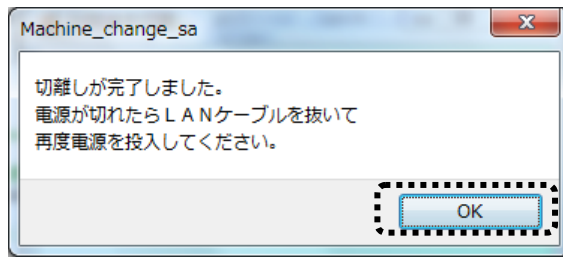
データの取出し処理と動作環境変更中です。



処理が終了すると表示されます。
「OK」をクリックすると電源が切れるので
LAN ケーブルを抜いてください。

(4) LAN 切離し再起動

前項「(3)動作環境変更終了確認」の確認画面で「OK」をクリックすると電源が切れます。
電源が切れたことを確認したら LAN ケーブルを抜いてください。
LAN ケーブルを抜いたら電源を入れてください。取出したデータの登録処理が起動します。



- ・OK をクリックすると電源が切れます。
- ・電源が切れたら LAN ケーブルを抜いてください。
- ・LAN ケーブルを抜いたら再度電源を投入します。

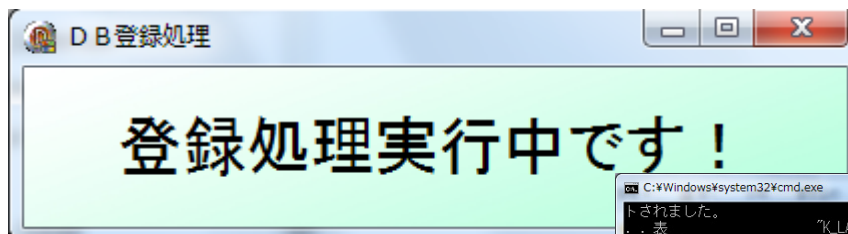
電源断

LAN ケーブル切離し

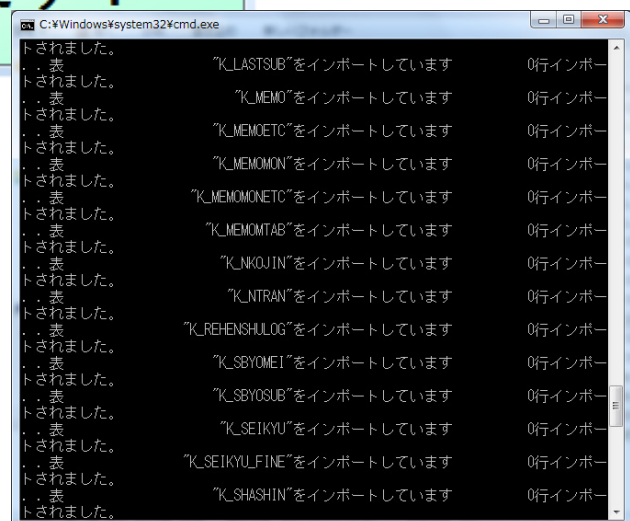
電源投入

(5) データ登録処理

前項「(3)動作環境変更終了確認」のときに取出したデータ登録します。
電源投入後、自動的に処理は実行され、終了したら自動的に電源が切れます。

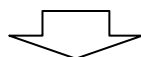
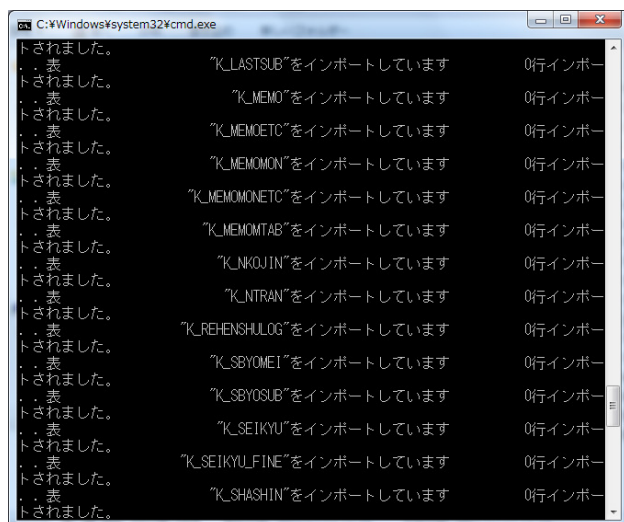
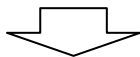
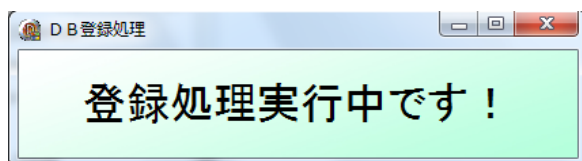


- ・登録処理実行中の画面を表示します。
- ・DB 登録状況が表示されます。
- ・全ての処理が終了すると電源が切れます。



(6) 処理終了電源断

全ての処理が終了すると自動的に電源が切れます。これでマシンの切離し作業が完了しました。
訪問診療先での診療入力の実行可能です。



電源断

切離し処理が全て終了しました。
再度電源を入れると診療入力を行う処理を起動できます。

以上で切離し処理を終了します。ここまでの処理を実行したマシンは訪問診療先への持ち出しが可能となり、診療データの入力を行うことができます。
訪問診療先ではメニュー画面も変わり、窓口業務以外の処理は実行できません。

【訪問診療先でのメニュー画面】



3.3 データ取込の準備

データ取込処理を行う前に全ての業務を一旦終了させ、全てのマシンはランチャーメニューが表示されている状態にしてください。

(SERVER 機と取込対象端末以外のマシンは電源断の状態でも構いません。)

3.4 データ取込処理の実行

訪問診療端末機(LAN から切離して訪問診療先へ持ち出していたマシン)で行う手順です。
以下の通りに進めてください。

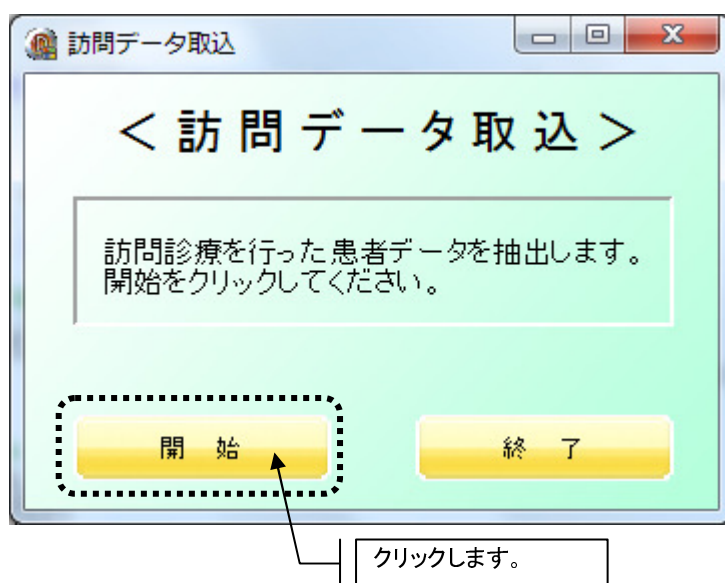
(1) 取込し処理の起動

ランチャーメニューから「システムサービス」→「訪問データ取込」を選択します。



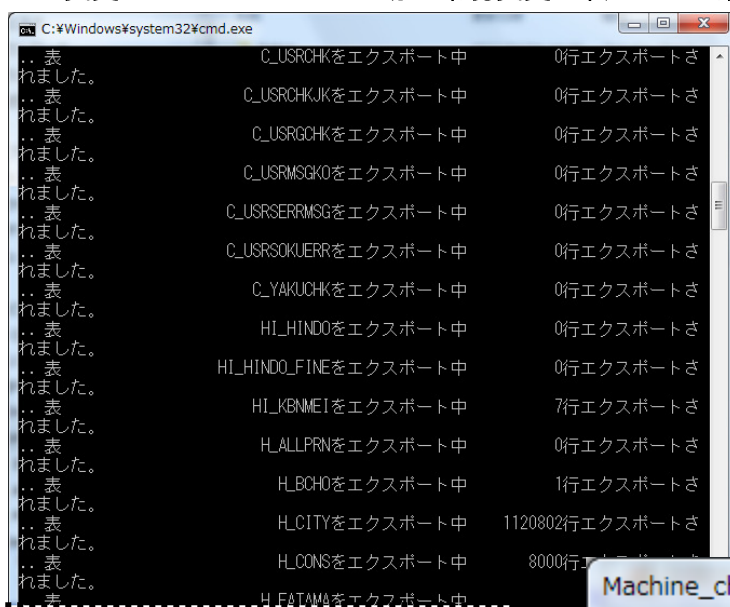
(2) 処理開始

取込し処理を始めます。「開始」ボタンをクリックしてください。

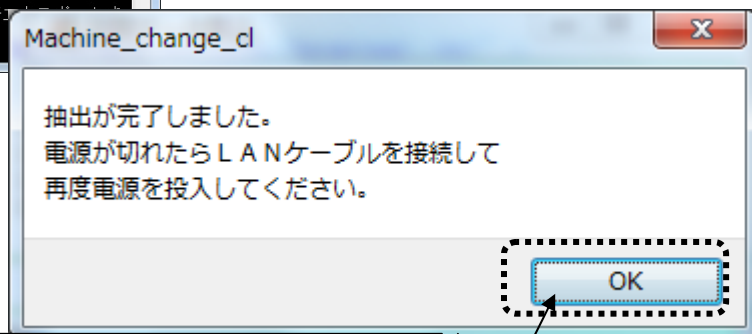


(3) 入力データ抽出と動作環境変更終了確認

マシンを LAN に接続するため訪問診療先で入力したデータを抽出し、マシンの動作環境を変更します。データ抽出と動作環境変更が終了したら確認画面が表示されます。



データの抽出処理と動作環境を変更中です。

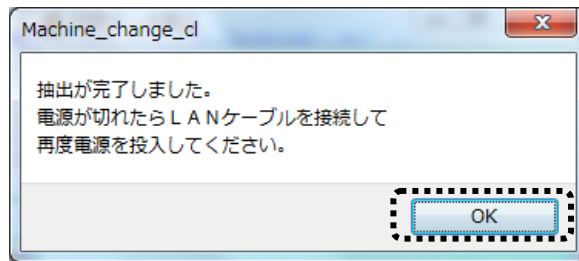


処理が終了すると表示されます。
「OK」をクリックすると電源が切れるので
LAN ケーブルを接続してください。

(4) LAN 接続再起動

前項「(3)入力データ抽出と動作環境変更終了確認」の確認画面で「OK」をクリックすると電源が切れます。電源が切れたことを確認したら LAN ケーブルを接続してください。

LAN ケーブルを接続したら電源を入れてください。抽出したデータの登録処理が起動します。



- ・OK をクリックすると電源が切れます。
- ・電源が切れたら LAN ケーブルを接続してください。
- ・LAN ケーブルを接続したら再度電源を投入します。

電源断

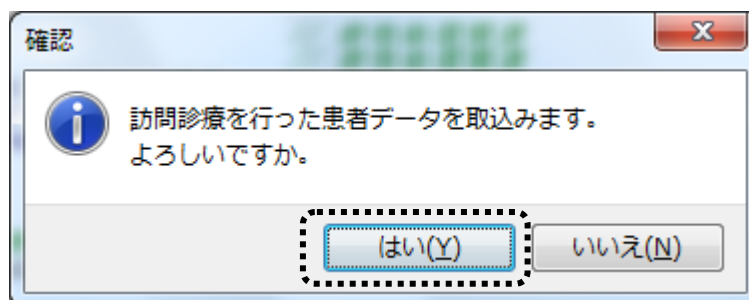
LAN ケーブル接続

電源投入

(5) データ登録実行確認

前項「(3)入力データ抽出と動作環境変更終了確認」のときに抽出したデータ登録します。電源を投入すると以下のメッセージが表示されます。

他業務が起動していないか確認したら「はい」をクリックすると、訪問データ登録処理が実行されます。



(6) データ登録処理

実行確認で「はい」を選択すると以下の画面を表示し、訪問データ登録処理が起動されます。

登録処理中は画面上のボタンは無効です。何もさわらないでください。

登録処理が終わると「印刷」と「終了」のボタンが有効になります。

処理実行中画面

訪問データ登録

< 処理対象患者一覧 >

	患者番号	氏名	生年月日
1	0000000001	テスト001	19581122
2	0000000003	テスト003	19641002
3	0000000017	日立 花子	19740917
4	0000000018	日立 次郎	19830227
5	0000000050	日立 太郎	19810708
6	0000000051	日立 太郎	19810708
7	0000000052	日立 太郎	19810708
8	0000000053	日立 太郎	19810708
9	0000000054	日立 太郎	19810708
10	0000000055	日立 太郎	19810708
11	0000000056	日立 太郎	19810708
12	0000000057	日立 太郎	19810708
13	0000000058	日立 太郎	19810708

取込処理実行中です。

印 刷 終 了

訪問診療先で入力した患者の一覧を表示します。

処理終了画面

訪問データ登録

< 処理対象患者一覧 >

	患者番号	氏名	生年月日
1	0000000001	テスト001	19581122
2	0000000003	テスト003	19641002
3	0000000017	日立 花子	19740917
4	0000000018	日立 次郎	19830227
5	0000000050	日立 太郎	19810708
6	0000000051	日立 太郎	19810708
7	0000000052	日立 太郎	19810708
8	0000000053	日立 太郎	19810708
9	0000000054	日立 太郎	19810708
10	0000000055	日立 太郎	19810708
11	0000000056	日立 太郎	19810708
12	0000000057	日立 太郎	19810708
13	0000000058	日立 太郎	19810708

取込は終了しました。

印 刷 終 了

画面に表示されている患者の一覧表をプリンターに出力します。

画面を閉じて電源を切ります。

以上で訪問データ登録処理を終了します。これでマシンは LAN クライアントに戻ります。

メニュー画面も元に戻り、窓口以外の業務も実行可能になります。

4. 運用上の注意

訪問診療端末機の運用を行う上で注意すべき点を以下に記述します。

- (1) 訪問端末を切離しているときに、各種のメンテナンス等で実行環境を変更しないでください。

院内LANと訪問端末のデータは、切離し作業を行った時点で同一の実行環境を保っています。この状態から一方のデータだけ実行環境を変更してしまうと、訪問データ取込を行った時にデータの不整合が起こる可能性があります。

- (2) 訪問端末側で入力した患者と同じ人のデータを院内LANで入力しても、訪問データ取込を行うと訪問端末の内容で上書きされ、院内LANで行った入力は無効になります。

訪問データ取込処理では訪問診療先で入力した患者データを患者番号毎に取込み、院内LANのデータに上書きします。そのため院内LANで入力した内容が無効となってしまいます。但し、訪問診療先で入力していない患者のデータには影響は無いので、通常の入力を進めることが出来ます。

- (3) 訪問端末として切離している状態で新患登録を行う場合は「新患(F5)」使わないでください。

訪問端末を切離している状態では院内LANと訪問端末の実行環境が同一に保たれています。そのため「新患(F5)」キーを使うと、院内LANでも訪問端末でも同じ番号が割り当てられてしまいます。

そのため訪問端末を切離している状態で、院内LANと訪問端末の両方で「新患(F5)」を使うと別々の患者に同一の患者番号が割り当てられてしまいます。このような状態になってしまう事を防ぐため、切離し中は訪問端末機で新患登録を行う場合「新患(F5)」を使わず、事前に番号を決めておき手入力する等の運用で対応することが必要です。

- (4) 訪問端末として切離している状態ではカルテ画面上に貼り付けた画像は表示されません。

訪問端末機は診療データの入力を行うことを目的としているため、診療データは全て院内LANより取出していますが、画像データは取出していません。(画像データを取り出した場合、切離し作業にかかる時間が長くなってしまい、実運用に耐えられなくなることも考えられます。)

そのため、院内LANでカルテ画面に貼り付けていた画像データは、訪問端末として切離した状態のときには表示されません。(「×」印となって表示されます。)

また、画像データの取り込み等の作業もできません。

強 制 余 白

Windows は、米国Microsoft 社およびその他の国での商標もしくは登録商標です。
その他本書に登場する会社名、製品名、プログラム名などは、それぞれに各社の商標もしくは登録商標です。
なお、本文中にはTM および®マークなどは記載していません。
また、本手順書に記載されている医療機関名、個人名等は架空のものであり、実在する医療機関、個人等とは一切関係ありません。